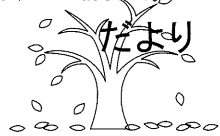


醸造協会



12月号をお届けします。執筆時点ではまだ11月で、各地の紅葉がニュースとなっています。東京でも木々が色づき始めました。冬型の気圧配置で空気が澄んでいるときには、通勤途上の車窓から真っ白に雪化粧した富士山が見えます。まだ、師走の感じはしませんが、気の早い商店ではクリスマスの音楽が流れ始めました。

9月30日の緊急事態宣言解除以降も、新型コロナウイルスの感染者数は減少を続けており、11月には新規の感染者数が全国で200人を下回るようになりました。東京都でも30人以下の日が続いています。コロナが落ち着いてきましたので、いろいろなイベントが各地で開催されるようになりました。11月5日～7日には筆者の住居の近所の公園でグルメ祭りというイベントが開かれ、多くの人でにぎわっていました。通勤時の電車の混雑も少し増えているような気がします。しかし、諸外国では、ワクチン接種率の高い国での感染者の増加が報告されており、まだまだ安心できる状況ではないようです。

醸造協会の最寄り駅はJR王子駅で、筆者も通勤で毎日利用しています。10月下旬から、王子駅のホームに「ちょっと“おうじ”に付加価値を 玉子駅（たまごえき）はじめます 10月22日から11月7日 #たまごえき」という黄色のポスターが多数張られ、通勤客は「？」という顔で通り過ぎていきました。最初は何のことかわからなかったのですが、10月30日は「たまごかけごはんの日」ということにちなんだイベントのようで、王子駅みどりの窓口横の特設売店で、全国各地の特徴ある高級卵が販売されていました。好きな卵を6個を選んで800円で購入できるとのことでした。テレビなどでも取り上げられ、多くの人が売店を訪れていました。また、11月5日～7日には駅前で「第3回たまごかけごはん祭り」が行われたとのことでした。

コロナ対応のため、今年の日本醸造学会大会も昨年と同様にオンラインでの開催となりました。10月1日から7日までの期間中の参加者総数は194名で、37題の一般講演、醸造協会技術賞4件の授賞式と受賞講演、醸造学会功績賞、奨励賞の授賞式と受賞講演が行われました。オンラインの特徴である質疑応答の充実は本年も顕著で、1講演当たり約5件の質問があって盛り上がりました。また、昨年は中止となった特別講演ですが、今回は、五味勝也東北大学教授に「麹菌研究40年の歩みを振り返る」の題でご講演いただきました。10月6日にはオンラインでの交流会も開かれ、特別講演講師を囲んでの懇談が行われました。来年の大会は、10月6日（木）～7日（金）に例年通りの北とびあいで対面での開催を目指しています。

今回も、旧醸造試験所第一工場（赤煉瓦酒造工場）に関する話題を紹介します。醸造協会は、赤煉瓦酒造工場の建設の経緯と建物の特徴をまとめたA4判の小冊子である「赤煉瓦酒造工場物語」（右写真）を発売しております。価格は660円（税込）です。皆様のご利用をお待ちしています。

今年もコロナに振り回された1年となりましたが、少しずつ日常がもどってきています。一方、今年の冬はラニーニャ現象が生じているため、寒くなるのではないかという予想が出ています。皆様健康に留意して良いお年をお迎えください。

赤煉瓦酒造工場物語

公益財団法人 日本醸造協会

